

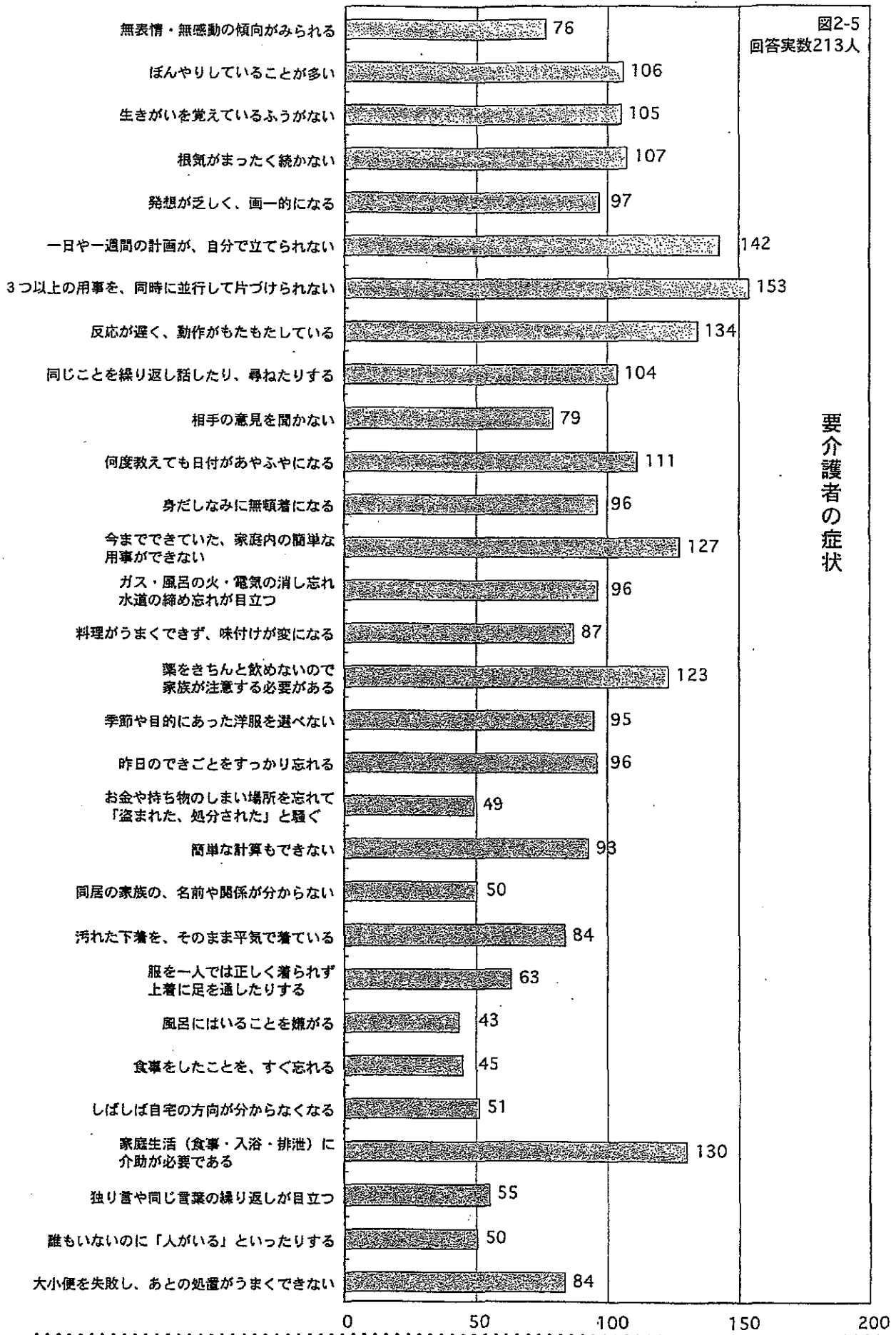
平成19年10月19日

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会』
意見報告 資料

「地域で安心して老いるために願うこと」

釧路地区障害老人を支える会
(たんぼぼの会)
会長 岩淵 雅子

1. たんぼぼの会の中で～「足の一本でも折れてくれたら…」
2. 「ぼけた人の命を守ってください」～徘徊老人SOSネットワークづくりへ
3. SOSネットワーク10年の検証と地域の力
4. 家族介護の実態調査から見える認知症の人と家族
5. 若年性認知症の人と家族の支援とネットワークづくり
6. 共に支え合う地域づくりをめざして～新しい「つながり」の再生を



症状からみた痴呆の状態

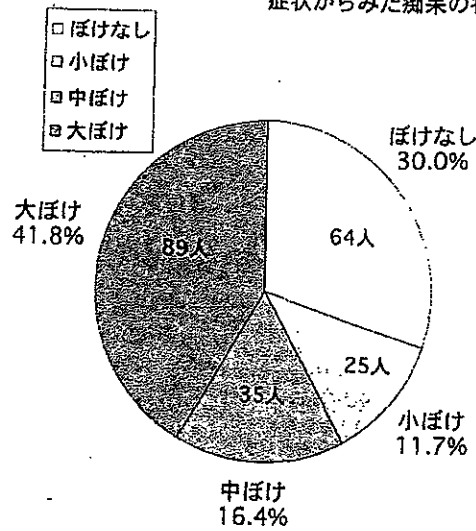
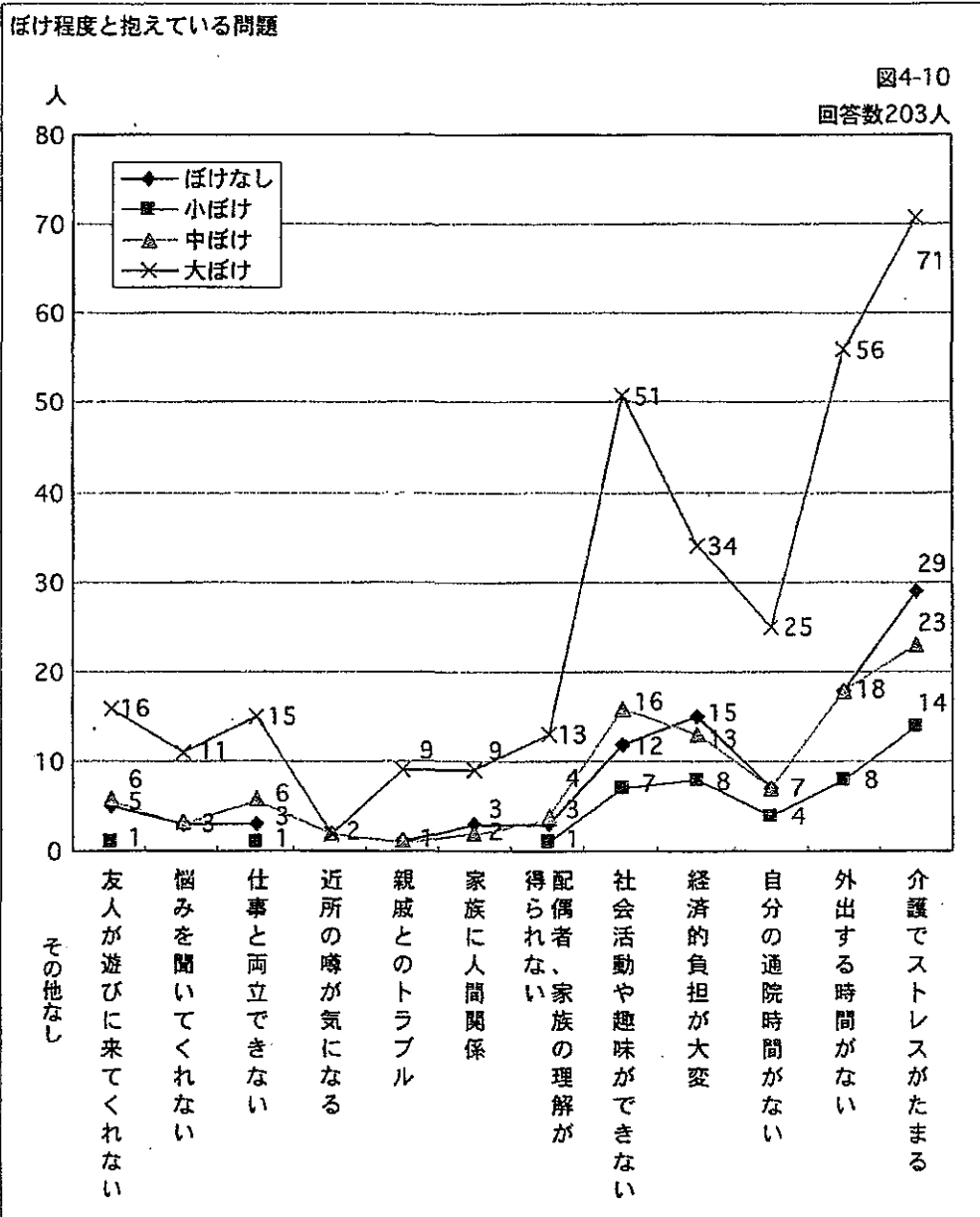


図2-6
回答数213人

- 小ぼけ：家庭生活では支障がないが、家庭の外、世間にとると社会活動面で様々な支障がある。
- 中ぼけ：身の回りの事は自分でやれども家庭内のことができない。
- 大ぼけ：身の回りのことも自分でできなくて介護がいる。見かけや態度は大人だが理解や判断力は幼児レベル。

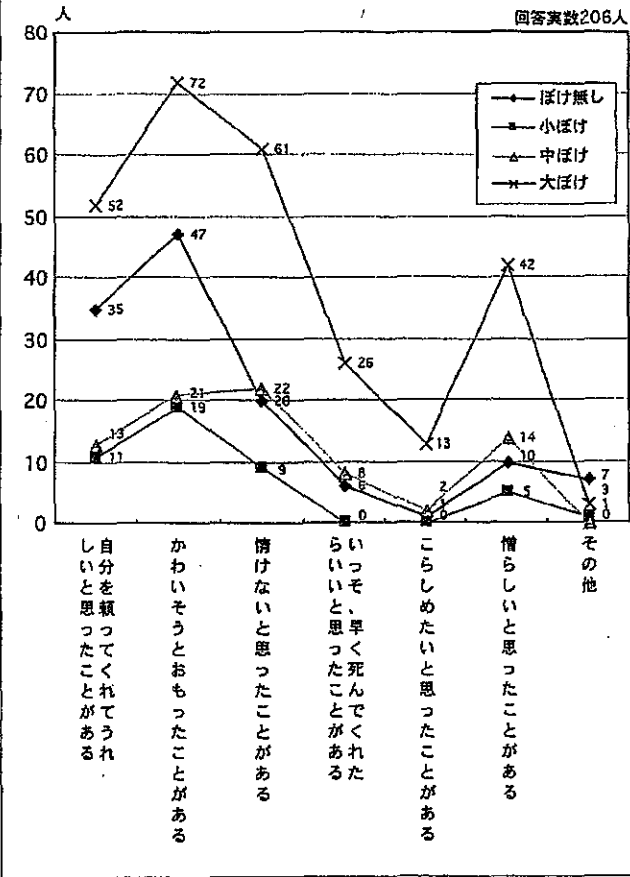
8. 介護上の問題



ぼけの程度と要介護者への感情

図4-13

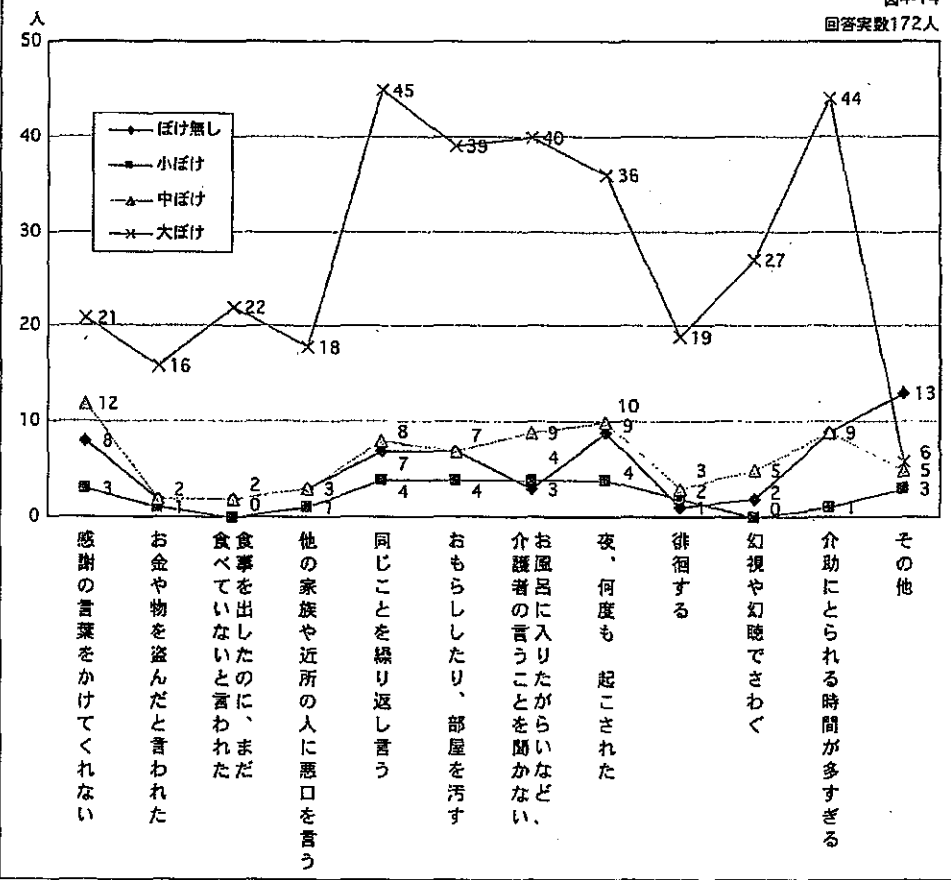
回答実数206人



ぼけの程度とトラブル

図4-14

回答実数172人



要介護者への態度

図4-16
回答実数173人

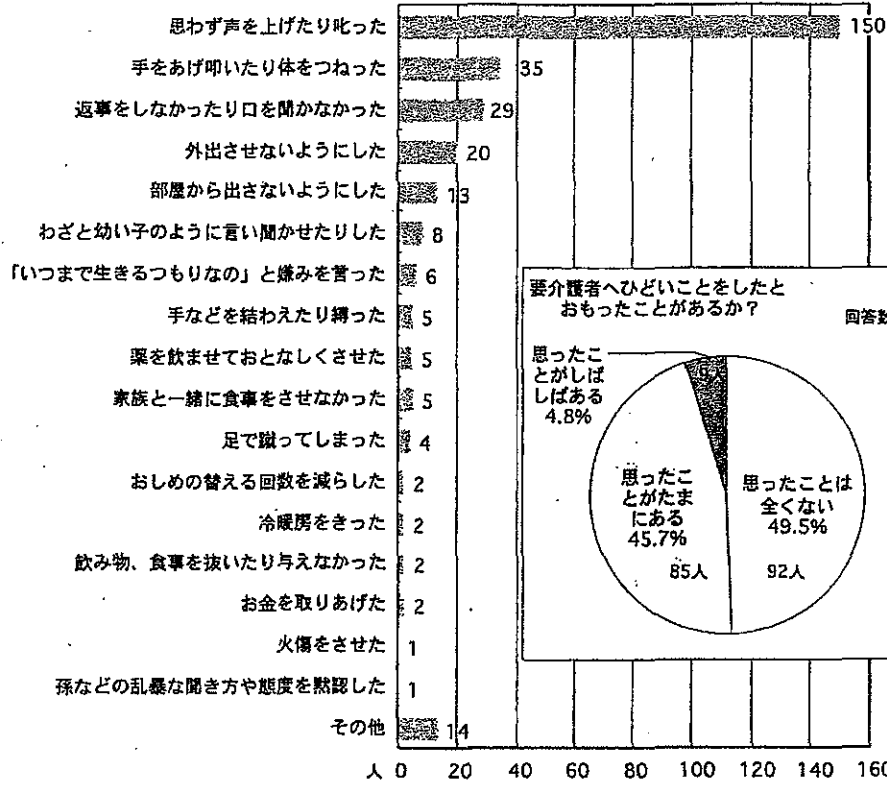
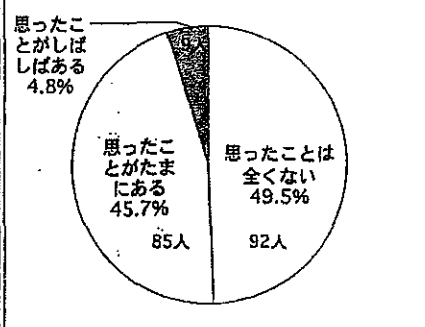
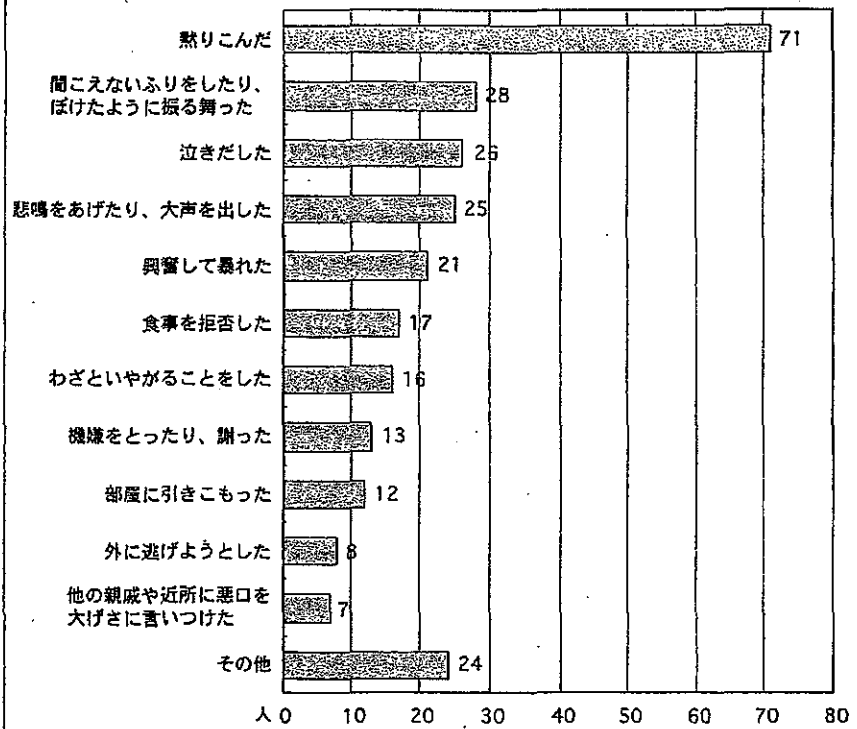


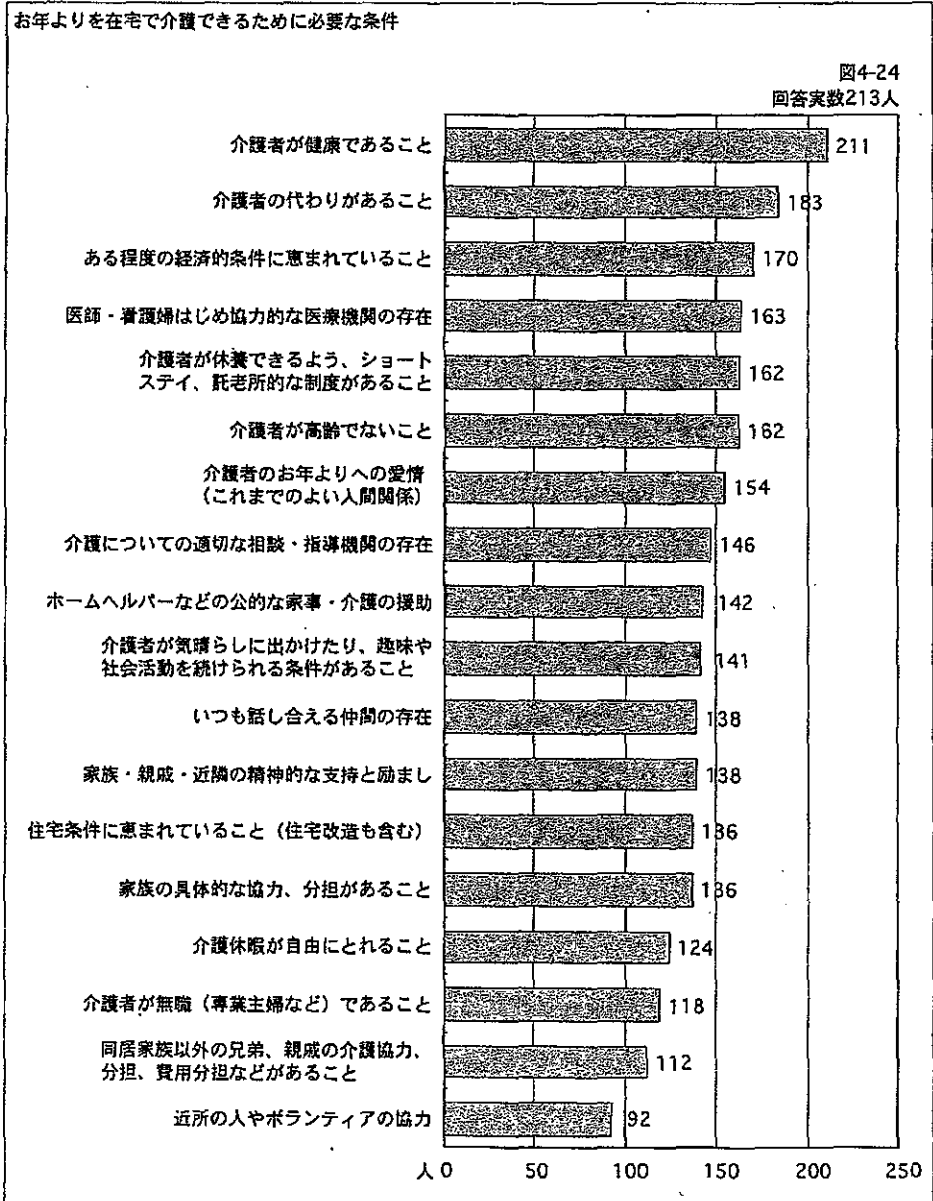
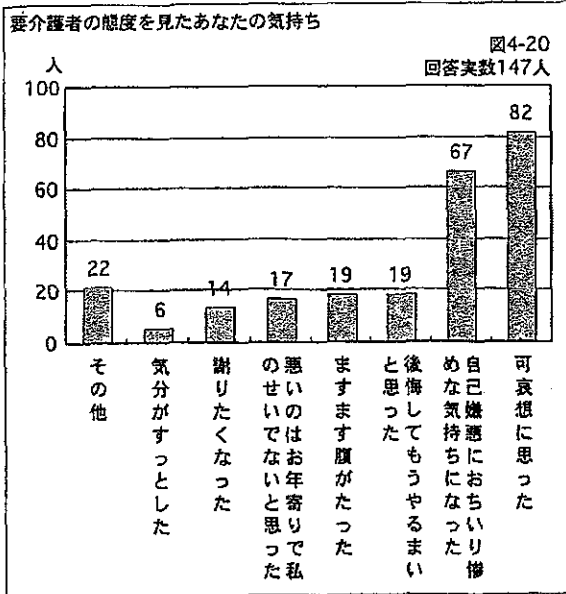
図4-15
回答数186人



介護者の叱責に対する要介護者のとった態度

図4-19
回答実数153人





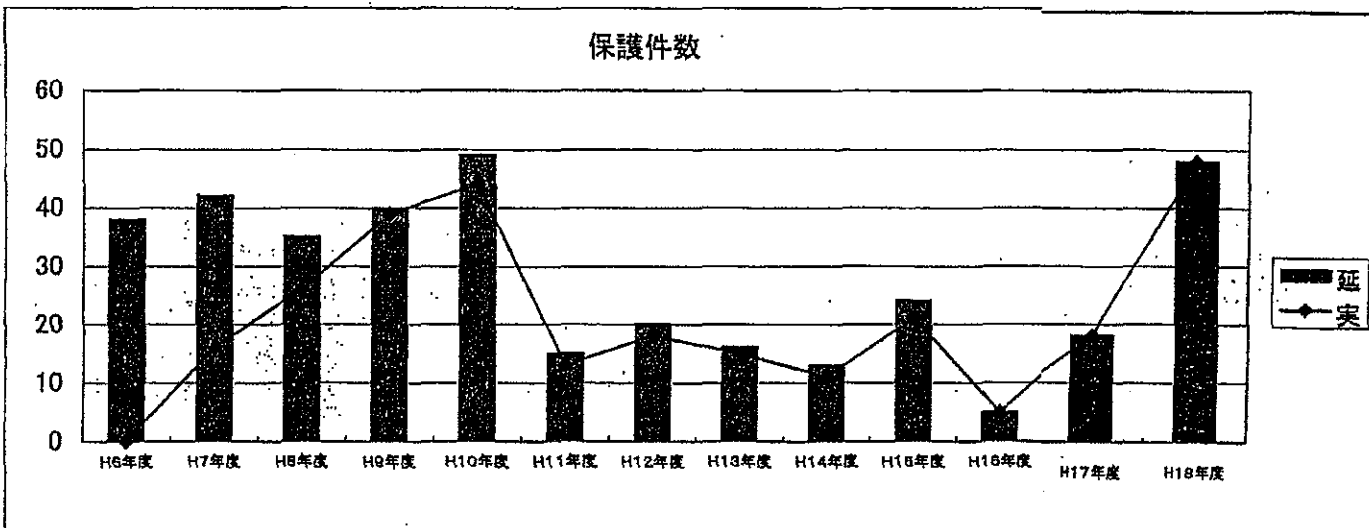
SOSネットワーク 利用状況(H6～H18)

(各年度3月末現在)

1 件数

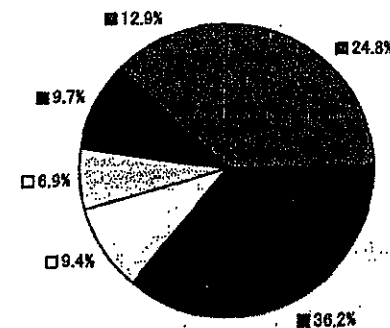
	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
実	0	16	26	39	44	13	18	15	11	21	5	18	48
延	38	42	35	40	49	15	20	16	13	24	5	18	48
死亡				2	1			1	1			1	1
不明				1			1					1	
計	38	42	35	43	50	15	20	17	14	24	5	20	49

保護件数



- 警察官
- 通行人
- 家族等
- タクシー
- 自力
- その他

発見者



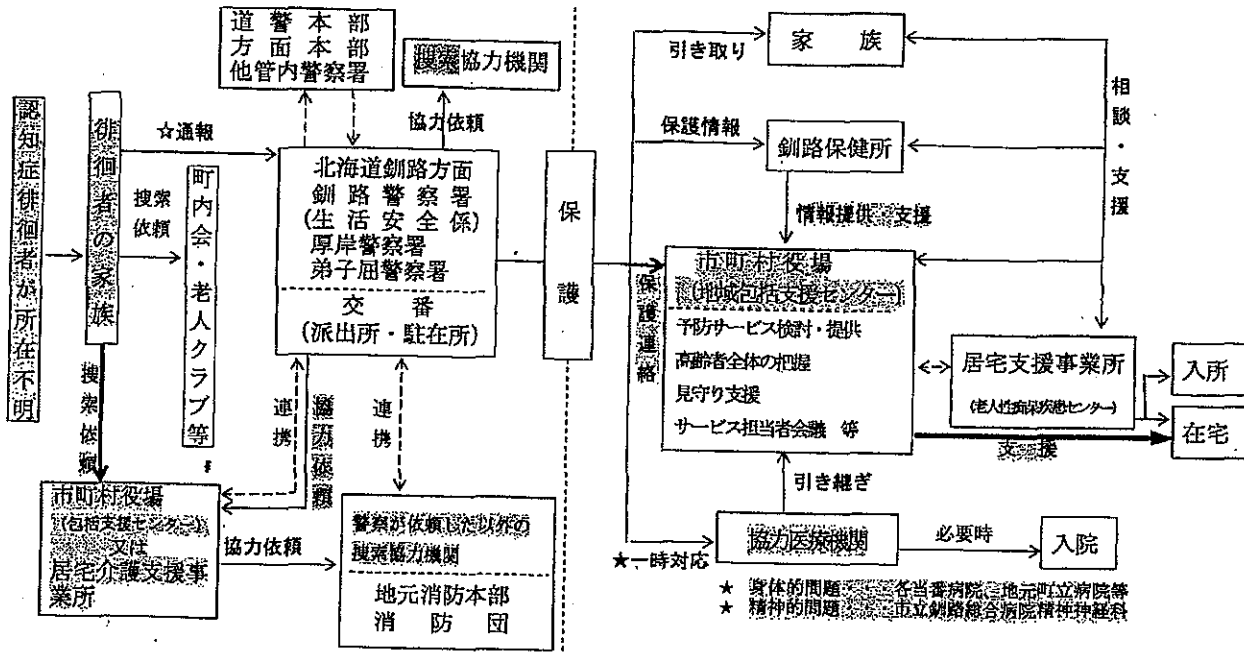
※その他

消防(1)、店員(4)、会社員(1)
 バス運転手(1)、病院職員(2)、施設職員(8)
 大学職員(1)、捜査員(1)、町村職員(1)、保健師(1)

- ・保護件数に関しては、平成6年度から10年度までは、延30から50件で推移。
- ・平成11年度からは10～20件台に減少し平成16年度には5件となったが17年度以降増加に転じている。
- ・実延では平成7年度は複数回保護されるお年寄りが多かったが、8年度以降実延件数に大きな差は見られない。

釧路地域SOSネットワークフローチャート

※網掛け部分変更



注1 警察からの捜索協力機関、市町村役場の協力依頼は家族同意必要
 注2 連絡用紙による通報（電話）の後、発見されなければ、正式の捜索願の提出

図1 徘徊老人の年齢別内訳 (1994-2003)

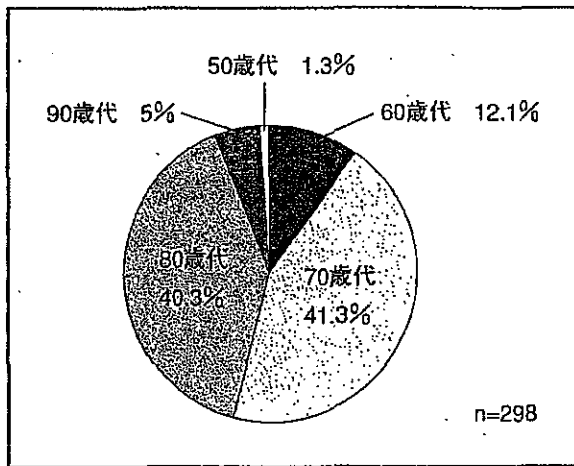
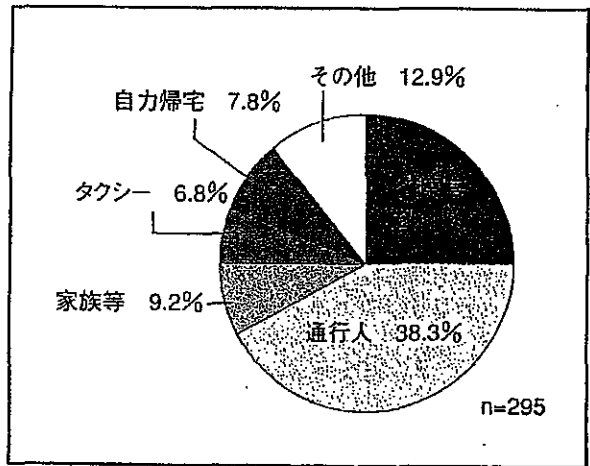


図2 徘徊老人の発見者の属性 (1994-2003)



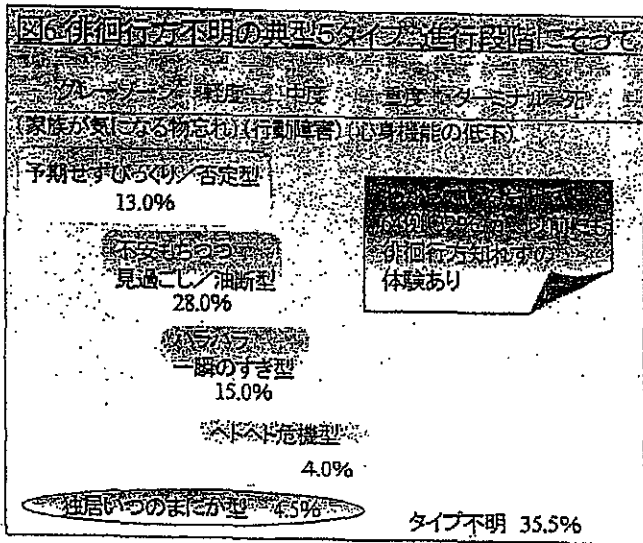
〈図1、2出典〉平成16年度SOSネットワーク連絡会議資料より

表4 不明にいたる誘因

- ◎ (ささいな) ストレスを抱えて
 - ・先立つ失敗 (いつもの簡単なことができない)
 - ・簡単なことが思い出せない (子供の住所) 忘れ物 (家の鍵)
- ・人に仕事を言い付けられて
 - 夫にタクシーを誘導するようにいわれて
 - 家の前の雪かき、目を離したすきに
- ・直前に家族と小さなさかい、しかられて
- ◎居場所の変更
 - ・転居、子供の家に移り住み
 - ・遊びに行く:子供のところ
- ◎老老介護 (介護者も痴呆気味、気づき・対応の遅れ等)
- ◎ (日中) 独居

表7 本人のことは、みつかった時

- おちかがわからなくなった
- 道に迷ってしまった (夜、玄関先からいなくなった)
- デパートに買い物きた。帰り方がわからなくなった、と
- 散歩しているうちに帰る道がわからなくなった。
家まで送って欲しい
- (自分で交番にたどり着いて)、
頭がぼかになった、帰り道がわからない、と
- 夫の命日で花を取りに山にいった。
- よそのおじいさんに会ってたばこをご馳走になった
- 野菜をとりに来た (基地でみつかった)



独り暮らし高齢者 安否確認事業も

10月2日 痴ほうケア問題で講演会

「高齢者の生活の質を向上させるには、まず高齢者の生活環境を整えることが重要である。特に一人暮らしの高齢者は、生活の不安定さから健康状態が悪化するリスクが高い。本会は、高齢者の生活環境を整えるための取り組みとして、一人暮らしの高齢者の安否確認事業を実施している。また、高齢者の認知症ケアについても、講演会を開催し、関係者への啓発を行っている。」

発足20周年「たんぼぼの会」



20周年の集まりの様子。左から右へ、赤千、辰野、足寄、金川。

同会は平成10年6月、赤千、辰野、足寄、金川の4人で発足した。当初は、高齢者の生活環境を整えるための取り組みとして、一人暮らしの高齢者の安否確認事業を実施していた。その後、高齢者の認知症ケアについても、講演会を開催し、関係者への啓発を行っている。

20周年の集まりは、10月2日(木)午後2時から、市総合福祉センターで開催された。当日は、赤千、辰野、足寄、金川の4人が出席し、高齢者の生活環境を整えるための取り組みについて、講演を行った。また、高齢者の認知症ケアについても、講演会を開催し、関係者への啓発を行っている。

(第三編 関係者同席)



釧路の「たんぼぼの会」

初の男性介護者の集い

9月10日 情報交換をする場に

「男性介護者の集い」は、9月10日(木)午後2時から、市総合福祉センターで開催された。当日は、赤千、辰野、足寄、金川の4人が出席し、男性介護者の生活環境を整えるための取り組みについて、講演を行った。また、男性介護者の認知症ケアについても、講演会を開催し、関係者への啓発を行っている。

「男性介護者の集い」は、9月10日(木)午後2時から、市総合福祉センターで開催された。当日は、赤千、辰野、足寄、金川の4人が出席し、男性介護者の生活環境を整えるための取り組みについて、講演を行った。また、男性介護者の認知症ケアについても、講演会を開催し、関係者への啓発を行っている。

痴ほう介護サポーター養成講座

介護家族を支援

障害老人を支える会

予定人員の2倍 1000人が殺到

熱気であふれる

国の「さらさら支援事業」で痴ほう性老人の在宅生活を支援する「痴ほう介護サポーター」の養成講座が31日と1日、釧路市総合福祉センターで開かれた。予定定員の2倍の1000人が受講し、熱気にあふれた研修となった。

(坂下めぐみ)



これは北海道の老人を支える家族の会の事業として釧路地区障害老人を支える会（たんぼの会・岩淵雅子会長）が釧路では初めて主催した。釧路市の「痴ほう性高齢者家族やすらぎ事業」と連携し、講座修了者は市の支援員養成を行う。有償で希望家庭に派遣されることになる。また、介護士研修としてある。あつちの会（岩淵雅子会長）の40代、50代の受講者が殺到した。

痴ほう介護サポーター

市の制度化にも期待

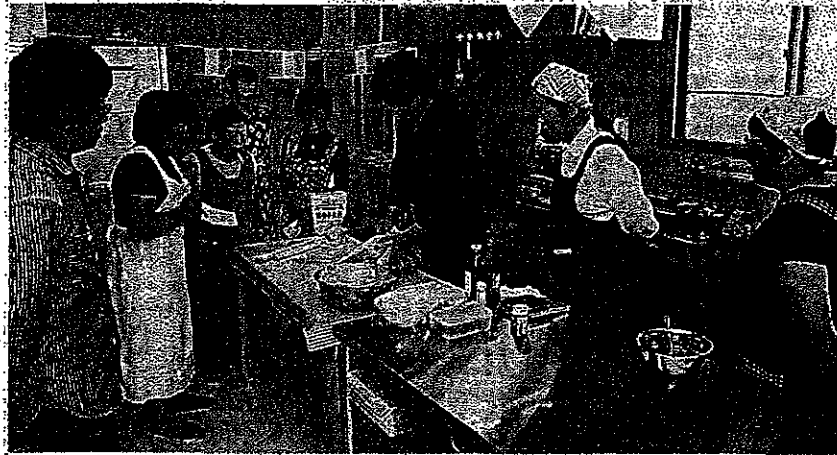
は、介護保険では受けられないサービスが少ない上、住み慣れた場所を過ごすのが最良とされる痴ほう性老人の在宅介護を支援するもので、介護家族支援が大きな目的。2日間の日程で、痴ほう介護の専門家が痴ほうとは何か、高齢者への理解、その家族への理解などをテーマに講義、演習を行った。

道は老人を支える家族の会の立野新平会長の演習では、痴ほうのお年寄りへの対応の基本は「説得」の納得させる」と参加者がグループ討議を行った。介護家族の会である主催者のたんぼの会の岩淵会長は「施設に頼らず、在宅介護を最優先にするには介護家族への支援が最大の課題。会としても市からたくさんの方々が派遣されるよう制度化してほしい」と期待を寄せている。

グループで熱気あふれる討議を行った痴ほう介護サポーター養成講座

平成十五年六月二日付 釧路新聞より転載

「冬月荘」初のイベントとなった料理会を楽しむ地域住民ら



高齢者、障害者らが支え合い、生きる場

冬月荘が本格始動

地域住民交え料理会も

釧路

障害者や高齢者、生活保護受給者、母子家庭の人たちが福祉制度の枠を超え、支え合いながら生活、就労する場「コミュニティハウス冬月荘」（釧路市米町）が、本格始動した。十一日には地域住民らを集えた料理会が開かれ、参加者からは「温かい雰囲気、居心地がいい」と好評で、今後もイベントが続々と行われる予定だ。

（村田亮）

冬月荘は、一階を支援企業の前社員寮を使い九月に開設。この二カ月、場、一階を地域住民と交通道内各地の行政関係者ら流す場とし、NPO法の視察が相次いでいる。人「地域生活支援ネットワーク」（日置真）が、民間子育て中の親子や住民ら

合えるような雰囲気」を目標としたという。

幼少期にいじめを受け、学校に通わなくなり、今も社会とかわる機会がないという無職の女性

（三）は「ほかの参加者から「ビザの作り方を教えてくださいました。ふれあいがとてもよかったです」と笑顔で話していた。

十三日には、釧路地区障害老人を支える会（た

んぼの会）が午前十時から、認知症の介護家族のつどいと医療相談会を実施。十四日には母子家庭の母親を対象とした市主催のパソコン教室の補習の場として活用、三十日には料理会に次ぐイベントとして歌謡会を午後一時から行う。

冬月荘は、生活保護者が高齢者を介護、高齢者が母子家庭の子育てをサポートすることで、それぞれ生きがいを見出し、自立への道筋をつけることを目指している。

現時点で居住者はいないが、日置事務局長代表は「多くの人に集まってもらい、冬月荘の可能性を探りたい」という。問い合わせは冬月荘015

4・655・1465へ。